

2020年度 (2021年3月期) 決算説明会 資料

ほこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組
証券コード：1852

この資料には、弊社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

はこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



ページ	項目
P 3	取り巻く事業環境
P 4～	前中期 3 カ年計画 連結業績の状況
P 6	前中期 3 カ年計画 株主還元の状況
P 7～	前中期 3 カ年計画 資金投入の状況
P 13～	新中期 3 カ年計画 長期ビジョン・位置付け
P 15～	新中期 3 カ年計画 ①～⑥
P 21	コーポレート・ガバナンス体制
P 22	トピックス

建設業

建設業界におきましては、公共建設投資は2021年から国土強靱化対策の5ヵ年計画が決定され、堅調に推移するものと思われませんが、民間建設投資につきましては、主要国で製造業の投資意欲が戻りつつあり、コロナワクチン接種の進展に伴い新型コロナウイルスの感染拡大が収束に向かうにつれ、2021年度を底に設備投資も回復してくるものと予測していますが、収束の遅れに伴う景気回復の遅れや米中貿易摩擦の激化に伴う国内経済活動への悪影響には注視が必要です。

建設投資の推移



(一財) 建設経済研究所より

○2018年度および2019年度

- ・消費増税に伴う駆け込み受注、大型工事の受注、潤沢な手持工事高、工事採算改善等により、受注高・売上高・営業利益・当期純利益共に中期計画達成

○2020年度

- ・新型コロナウイルスの影響等を勘案し年度計画を中期計画より下方修正したが、受注高以外は年度計画達成

○3ヵ年平均

- ・営業利益は中期計画未達ながら、受注高・売上高・当期純利益は中期計画達成

(単位：億円)

主な経営指標 (連結)	2018 中期計画	2018 実績	2019 中期計画	2019 実績	2020 中期計画	2020 年度計画	2020 実績	3ヵ年 中期計画 平均	3ヵ年 実績平均
受注高	1,300	1,537	1,330	1,483	1,360	1,261	1,206	1,330	1,408
売上高	1,295	1,357	1,366	1,415	1,389	1,345	1,389	1,350	1,387
営業利益	49.0	57.0	62.0	66.0	72.0	52.5	52.9	61.0	58.6
親会社株主に 帰属する 当期純利益	32.0	41.8	40.0	43.0	47.0	40.2	41.4	39.7	42.1

(中期計画の数値は、2018/5/11発表時点)

中期計画の主な経営指標（最終年度の2020年度連結）

営業利益率	5.0% 以上	未達成
自己資本利益率(ROE)	10.0% 以上	達成
投下資本利益率 (ROIC)	3ヵ年とも資本コストを上回る	達成
自己資本比率	40.0% 台	達成

主な経営指標 (連結)	2018 中期計画	2018 実績	2019 中期計画	2019 実績	2020 中期計画	2020 年度計画	2020 実績
営業利益率	3.8%	4.2%	4.6%	4.7%	5.2%	3.9%	3.8%
自己資本利益率 (ROE)	9.0%	11.5%	10.6%	11.3%	11.4%	10.0%	10.3%
資本コスト (WACC)	5.0%	5.1%	5.0%	6.0%	5.0%	6.0%	6.2%
投下資本利益率 (ROIC)	7.0%	8.1%	8.4%	9.1%	9.2%	7.0%	7.0%
株主資本コスト	7.3%	7.4%	7.3%	8.0%	7.3%	8.0%	8.0%
自己資本比率	36.0%	36.6%	41.0%	38.0%	47.0%	43.0%	45.0%

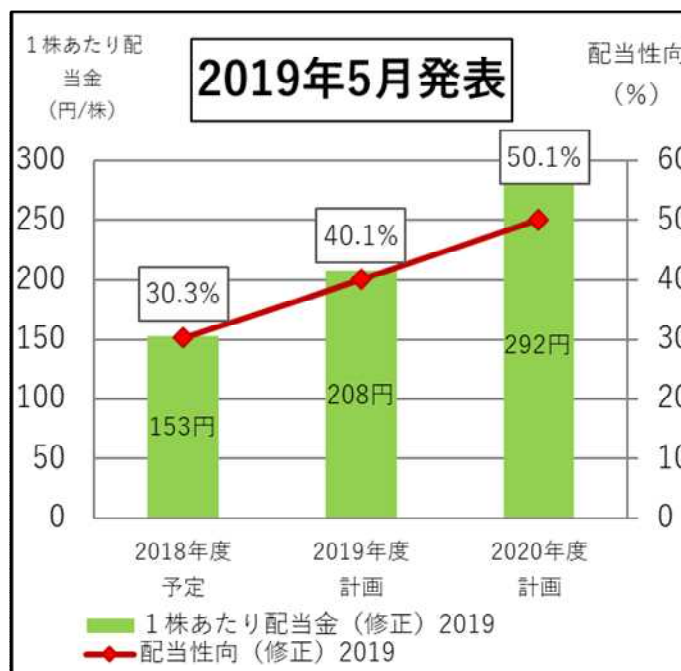
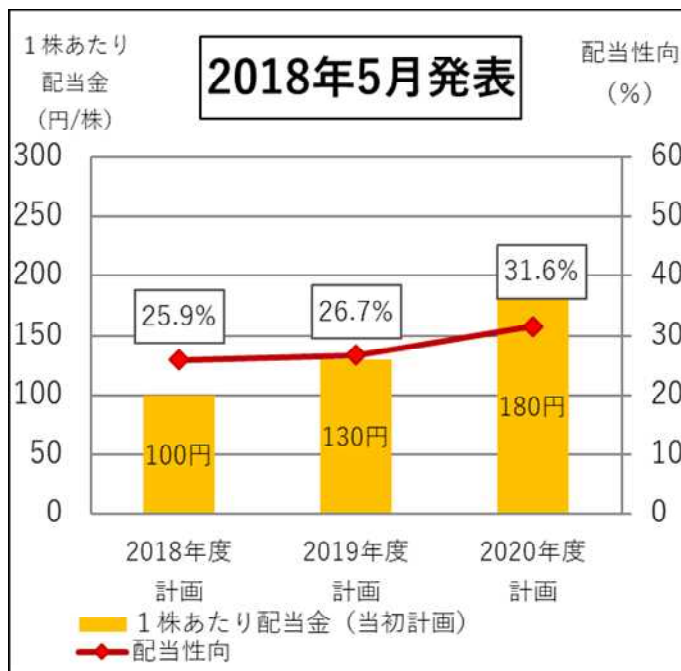
	2021/3期
支払利息 (百万円)	106
有利子負債 (百万円)	11,026
負債コスト	0.96%
10年国債利回り	0.104%
β値	1.138
市場期待利回り	7.00%
株主資本コスト	7.95%
時価総額 (百万円)	36,094
税率	0.304
資本コスト (WACC: 加重平均資本コスト)	6.25%

(中期計画の数値は、2018/5/11発表時点)

前中期3ヵ年計画 株主還元の様況



- 2018年5月：中期計画発表時の配当計画（当初）
- 2019年5月：配当計画を上方修正（2018年度配当金を53円増額）
- 2020年5月：配当計画を上方修正（2019年度配当金を8円増額）
- 2020年8月：新型コロナウイルスの影響を勘案し、2020年度計画を中期計画より下方修正したため2020年度の配当金計画を42円減額
- 2021年5月：配当計画を上方修正（2020年度配当金を7円増額）



○自己株式取得

- ・取得株式数：313,600株
- ・取得価額：999,933,700円
- ・取得期間：2018年11月12日～2019年1月16日

○自己株式消却

- ・消却株数：430,000株（発行済株式総数に対する割合:5.05%）
- ・消却日：2019年5月31日
- ・発行済株式総数：8,078,629株（消却前 8,508,629株）

3年間で **200億円** の資金投入

	中期計画	投資実績
■ 投資計画		
◆技術・システム関連への投資	50億円	20億円
◆新領域（海外・新分野）への投資	50億円	15億円
■ 使途計画		
◆協力会社との連携強化を目的とした支払いの現金化	100億円	145億円
合 計	200億円	180億円

技術研究所 増築、改修（2019年3月末オープン）

1	研修エリアを拡充 ・ 若手社員や協力会社の技術者の研修、体験型教育の実施
2	耐震・免震技術の高度化 ・ 地震モニタリングシステムを設置した制震構造 ・ 試験機器の更新
3	多目的実験スペースの設置 ・ 全天候対応の大型実験スペース



1 既存棟 研修エリア



2 増築棟 制震ダンパー



全景



3 増築棟 自然光照明を用いた多目的実験スペース

Ai-MAP SYSTEM

作業所における熟練者の技能伝承と生産性向上を目的に開発

内 容	特 徴	効 果
技能動作解析	GPSカメラやセンサ、を熟練者に取り付け、または、動画撮影により、動作・行動・音声をデータ化し分析	技能伝承
インフラ通信管理	通信システムの活用による遠隔地から現場の生産管理の実施と効率化を促進	生産性向上



ウェアラブルカメラ
(Ai-LOGGER)



インフラ通信システム
(Ai-TEC)

基幹システムの再構築

営業・積算・設計、会計、人事給与システムの完全クラウド化
管理部門における様々な基幹システムの更新

営業・積算・設計
システム

クラウドでの経営管理基盤の再構築
業務の効率化を推進

会計システム

人事給与システム

再構築システム

リニューアル事業コンセプト『ReQuality』を立ち上げ

『ReQuality』は、人間の環境だけでなく、その先の地球環境のことも考えることで、資源が循環し、そこで過ごす人たちの巡りも良くなる。そんなより良い循環を、浅沼組はリニューアル事業を通じて生み出していこうというコンセプトです。

「人間にも地球にもよい循環」をテーマにした、循環型プロジェクト「**GOOD CYCLE PROJECT**」（グッドサイクルプロジェクト）を、2021年4月1日に開始しました。



人間は、自然の一部になれるだろうか。

水、土、森、自然が生命を育んでいる。生命は、やがて土に還り、また次の生命の種となる。そうやって循環しながら、自然は持続していきます。人間はその循環に、どう関わっていいのでしょうか。あらゆる業界で、その姿勢が問われています。建設業界は、どうか。建設会社として多くの建物やインフラをつくらせてきた浅沼組は、思います。人間の環境を整備することは、地球環境に手を加えることでもある。人間にも地球にも、よい循環を築けるならば、建設業の未来はない。そこで浅沼組は「GOOD CYCLE PROJECT」を立ち上げました。新しい素材や技術の開発、サービスの提供などが始まっています。これからの浅沼組に、ご期待ください。



「**GOOD CYCLE PROJECT**」は、以下4つのアクションにより展開します。

- ① 「**GOOD CYCLE PRODUCT**」：クラウドファンディング
(名古屋支店改修工事の吉野杉の残材の再利用)
- ② 「**GOOD CYCLE SERVICE**」：リニューアル事業
(技術やノウハウを活かし、建物を建築するだけでなく、ライフサイクル全般にわたって、お客さまに寄り添えるパートナーを目指します。)
- ③ 「**GOOD CYCLE BUILDING**」：名古屋支店リニューアル
(浅沼組が提案するより良い循環を再現)
- ④ 「**GOOD CYCLE TALK**」：オウンドメディア開設
(人間にも地球にもよい循環をテーマにWEBで連載予定)



GOOD CYCLE SERVICE



GOOD CYCLE BUILDING

海外事業 強化

○子会社取得

名 称	SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.
所 在 地	シンガポール
事 業 内 容	建物塗装・修繕工事請負業
議 決 権 所 有 割 合	2018年10月 80% 株式取得 2023年10月 20% 株式取得予定
買 収 理 由	ASEAN地域でのリニューアル事業展開

○タイ王国における老朽化高速道路・橋梁のメンテナンス事業への取り組み

炭素繊維シートを使用し、タイ王国の老朽化した高速道路や橋梁のメンテナンス事業への取り組みをしています。近年タイ王国における公共インフラ投資は著しく成長し、それに伴うメンテナンス事業の需要も高まっています。JICAのSDGsビジネス支援事業にも採択され、SDGsのゴール9と11に貢献できるよう取り組みを推進していきます。

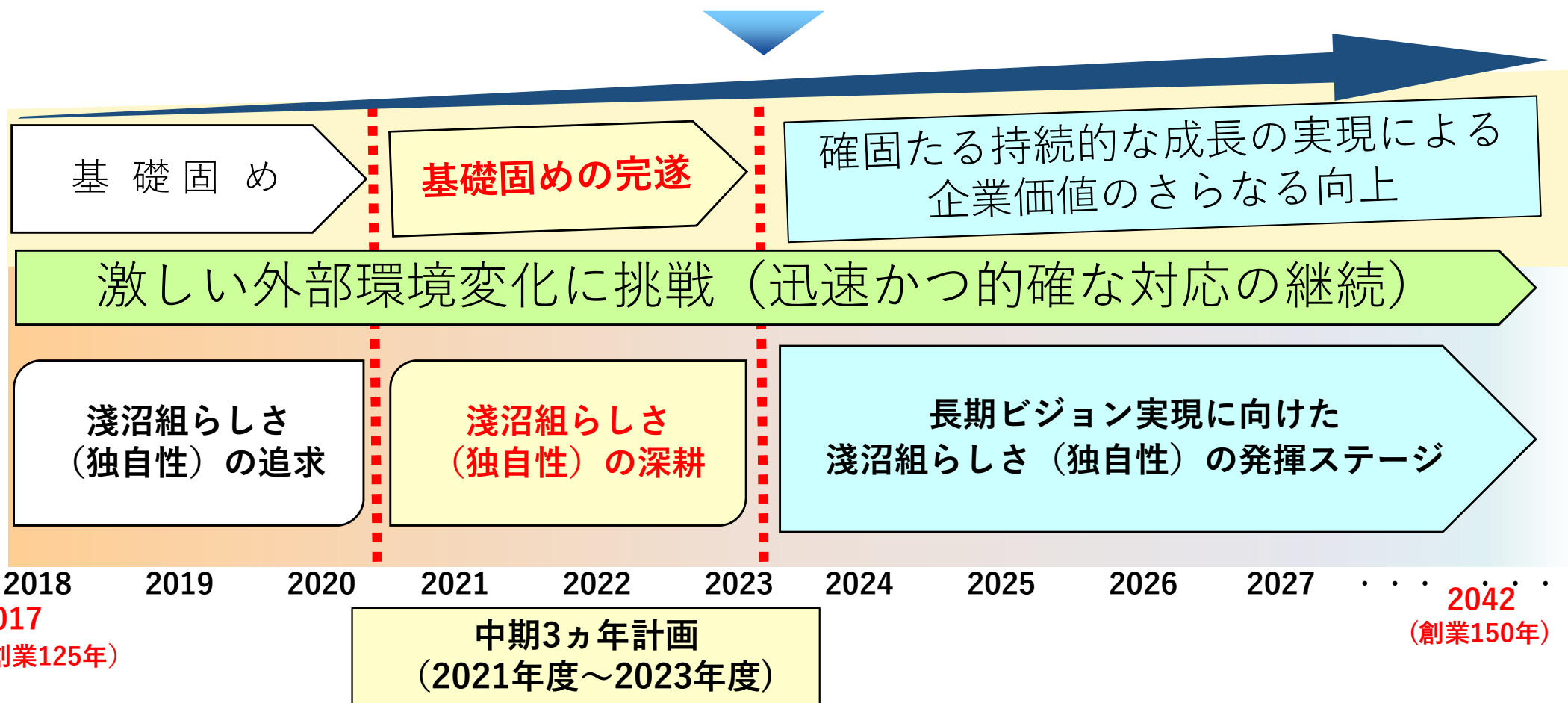


外部環境の激しい変化に対し
独自性を発揮し果敢に挑戦し続ける企業

環境に強いリニューアルブランド『ReQuality』の推進と
ASEAN地域のリニューアル事業拡大により、
当社最大の強みをリニューアルとし、
如何なる環境変化があっても、
安定して成長を続け、長期的に企業価値を高めていきます

— 位置付け —

◆長期ビジョン実現に向けた
「浅沼組らしさ（独自性）の深耕」として位置付ける◆



— 基本方針 —

浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

浅沼組らしさ(独自性)

愚直なまでのモノづくりへのこだわりと変化を恐れず果敢にチャレンジする精神を以て、独自の技術とノウハウに裏打ちされた多様なサービスを提供する企業

外部環境変化への挑戦

- ★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
 - 1. 積算・施工部門によるコストデータの蓄積・活用の拡充等
 - 2. ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続等
 - 3. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進等
- ★ 建設分野における生産労働人口の減少
 - 1. 独自技術である「Ai-MAP SYSTEM」の高度化等
 - 2. 女性社員・外国人社員の採用強化等
 - 3. 建設キャリアアップシステムの推進拡充等
- ★ 非財務経営活動(ESG・SDGs等)による企業評価向上の機運
 - 1. 「E」：エコフレンドリーASANUMA21の推進等
 - 2. 「S」：『ReQuality』の一環でWELL認証の取得等
 - 3. 「G」：政策保有株式の削減継続等

エコフレンドリー ASANUMA21

長期的なCO₂削減目標を設定

「施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年比で2030年までに50%、2050年までに70%削減」

【脱炭素化の推進】～脱炭素社会の実現に向けて～

1 建造物の長寿命化による脱炭素化の推進

長寿命化のための建物診断、技術の活用、開発

2 運用段階における脱炭素化の推進

脱炭素建物の設計、開発

- ・設計物件の省エネルギー化の推進
- ・CASBEE Aランク以上を目指す
- ・ZEB認証、WELL認証の取得を目指す



RM安震ブロック



スムーズフィルクリート



CCB-NAC工法

3 施工段階における脱炭素化の推進

- ①施工段階でのCO₂削減
- ②長期的なCO₂削減目標の設定

【資源の循環】～循環型社会の実現に向けて～

1 建設副産物の発生抑制

2 建設副産物のリサイクルと適正処理

建設副産物のリサイクルの推進と適正処理の取り組み

3 再生資材の積極的活用



再生砕石



再生鋼材

【自然・社会との共生】～自然・社会との共生を目指して～

1 自然環境と生物多様性の保全

- ①生物多様性の保全
- ②現地の土砂の活用

2 施工による有害な環境影響の抑制

- ①有害物質の適正処理
- ②地域環境への配慮

3 社会との共生

- ①地域との連携
- ②社会への貢献



生物多様性簡易評価ツール『いきものプラス』



地域美化活動

経営指標

(単位：億円)

主な経営指標(連結)	2020年度 実績	2021年度 計画	2022年度 計画	2023年度 計画	3ヵ年 計画平均
受注高	1,206	1,321	1,415	1,466	1,401
売上高	1,389	1,400	1,355	1,373	1,376
営業利益	52.9	53.4	65.3	67.3	62.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	41.4	41.7	44.0	45.4	43.7
国内建築リニューアル 受注高	138	200	250	300	250
国内建築リニューアル 売上高	199	200	250	300	250
国内建築リニューアル 営業利益	11.8	12.0	14.5	17.4	14.6

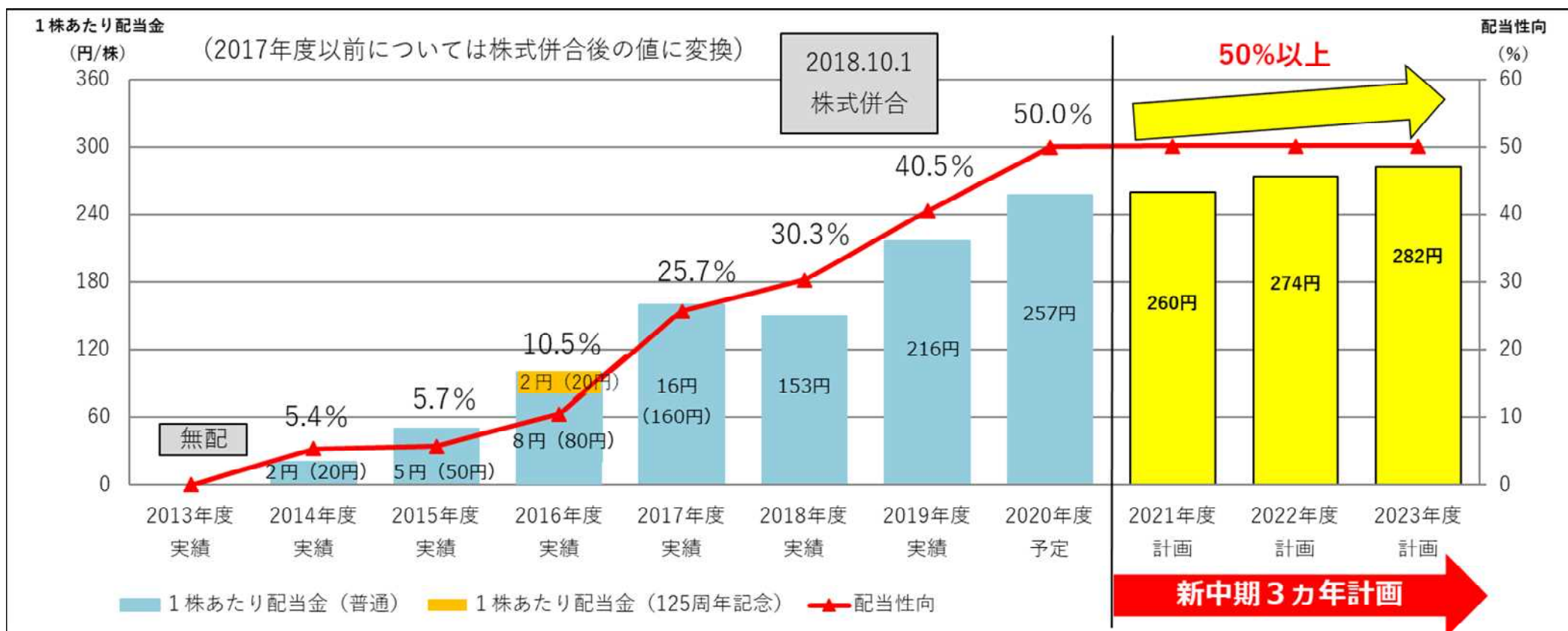
経営指標

- 営業利益率 : 2023年度において5.0%以上を確保
- 自己資本利益率 (ROE) : 3ヵ年とも10.0%以上を確保
(株主資本コストを上回る水準)
- 投下資本利益率 (ROIC) : 3ヵ年とも資本コストを上回る水準

主な経営指標(連結)	2020年度 実績	2021年度 計画	2022年度 計画	2023年度 計画
営業利益率	3.8%	3.8%	4.8%	5.0%
自己資本利益率 (ROE)	10.3%	10.1%	10.2%	10.0%
株主資本コスト	8.0%	8.0%		
投下資本利益率 (ROIC)	7.0%	7.1%	8.3%	8.3%
資本コスト (WACC)	6.2%	6.0%		

株主還元 配当性向計画

連結配当性向は引続き建設業界最高水準である **50%以上** を継続します



長期ビジョン実現に向け、投資効果を厳格に見極めた上

3年間で、配当後CFの合計額 **80億円** の
資金投入を実施します



◆ **技術開発・ICT関連投資** : **30億円**

(耐震・免震技術、Ai-MAP SYSTEM高度化、環境関連技術等)

◆ **新領域関連投資** : **50億円**

(ASEAN地域リニューアブル事業拡充、コンセッション事業推進等)

※投資効果

$$\frac{\text{税引後営業利益増加額 (2023年度計画の2020年度比)}}{\text{前中計投資額 + 新中計投資計画額}} = \frac{14.4 \times 0.7}{115} = 8.7\% > \text{資本コスト} 6.25\%$$

コーポレート・ガバナンスのさらなる強化

取締役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外取締役の割合 1 / 3 (2020年6月開催株主総会后より) ・ うち女性社外取締役 1名
監査役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外監査役の割合 3 / 4 (同上) ・ うち女性社外監査役 1名 (2021年6月開催株主総会后予定)
取締役会の実効性の分析及び評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部機関による実施 (2019年度より)
指名・報酬委員会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両委員会の委員長 社外取締役 ・ 社外取締役の割合 過半数 ・ 開催日数 (2018年度 7回、2019年度 9回、2020年度 6回)
役員報酬制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 譲渡制限付株式報酬制度の導入 (2021年6月開催株主総会后より)
IRの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機関投資家向け説明会 (2021年より年4回実施予定) ・ 個人投資家向け説明会 (2020年2月に初開催、今後年2回実施予定)
保有株式について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上場株式の保有適否判断基準 配当と工事粗利益の便益が「株主資本コスト」を下回る場合に縮減 ・ 売却実績 2018~2020年度 合計30.9億円 (上場株式) ・ 連結純資産比率 2018年3月期末 23.4% ⇒ 2021年3月期末 13.3%へ縮減 <p>★政策保有株式の残高を2022年3月期末までに連結純資産の10%未満に</p>

浅沼組の最近のトピックスをご紹介します

- 嘉麻市庁舎 各賞受賞
- 2020/11 ウッドデザイン賞 2020 入賞
 - 2020/ 3 日本コンクリート工学会賞 作品賞
 - 2021/ 4 福岡県木造・木質化建築賞 優秀賞

- 2020/11/2 環境配慮型コンクリート
- 2020/11/11 生産性向上策表彰・発表会
- 2020/12/16 配筋自動チェックシステム
- 2021/3/1 Ai-MAP SYSTEM



迅速に配筋チェック

自動システムを現場実装

ゼネコン21社

現場作業の効率化と安全管理の向上を目的として、現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されています。

現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されています。

2020/12/16 日刊建設工業

PRISMの現場試行で進化



アイマップシステム

現場作業の効率化と安全管理の向上を目的として、現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されています。

現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されています。

2021/3/1 日刊建設通信

CO2排出量63%減

環境配慮型コンクリートで性能証明取得

材料に高炉スラグ微粉末

長谷工コーポレーションは、環境配慮型コンクリート（CELBIC）の研究開発を進め、高炉スラグ微粉末（SRG）を配合した環境配慮型コンクリート（CELBIC）を開発しました。このコンクリートは、従来のコンクリートに比べてCO2排出量が約63%減少し、強度も同等です。

環境配慮型コンクリート（CELBIC）の研究開発を進め、高炉スラグ微粉末（SRG）を配合した環境配慮型コンクリート（CELBIC）を開発しました。このコンクリートは、従来のコンクリートに比べてCO2排出量が約63%減少し、強度も同等です。

生産性向上策表彰

浅沼組は、生産性向上策表彰を受賞しました。これは、現場作業の効率化と安全管理の向上を目的として、現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されたことによるものです。

浅沼組は、生産性向上策表彰を受賞しました。これは、現場作業の効率化と安全管理の向上を目的として、現場作業員がスマートフォンやタブレット端末で配筋チェックを行うことができるように、現場実装された自動システムが、現場作業員の間で広く活用されたことによるものです。

2020/11/11 日刊建設工業

2020/11/2 日刊建設工業



株式会社 浅沼組

2021年5月21日

ほこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500

F a x 06-6585-5556